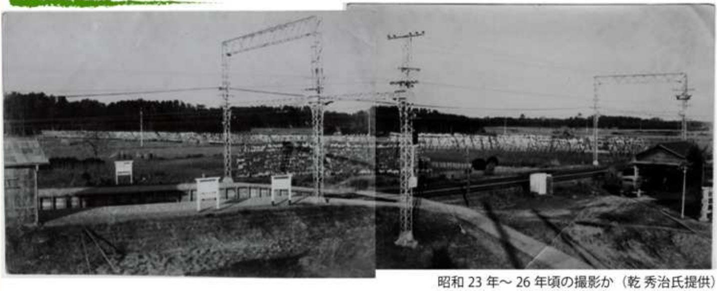
さいくうあと通信

発　行 明和町 斎宮跡・文化観光課
（三重県多気郡明和町大字馬之上945番地）
電話：0596-52-7126 FAX：0596-52-7133
E-mail：saikuuato@town.mie-meiwa.lg.jp

斎宮跡のいま・むかし

斎宮跡では、近鉄斎宮駅北側に休憩所が完成し、平安時代の斎宮寮庁を復元したさいくう平安の杜が完成するなど整備が進んでいます。現在の風景と、かつての斎宮の風景を比べてみましょう。

＜近鉄斎宮駅＞



昭和23年～26年頃の撮影か（乾 秀治氏提供）

近鉄斎宮駅から北方面を撮影した写真です。左手に駅のホームが確認できます。駅舎の屋根から撮影したものでしょうか。斎宮駅は近畿日本鉄道株式会社の前身である参宮急行電鉄株式会社によって、昭和5年3月の開通当初に建設されました。駅には本線と別に引込み線が設けられ、北東1kmの北野に所在した陸軍通信連隊基地への物資運搬に使われていました。戦後は特産の大根漬を大阪方面へ出荷するために使われたそうです。写真からも線路の北側一面に大根が干されている風景が確認できます。

昭和6年～8年頃の撮影か
（中川隆雄氏提供）

伊勢街道から近鉄斎宮駅へ向う道を南から撮影した写真です。古写真は昭和6年～8年頃に撮影されたもので、車両や架線が確認できますが、開業当初のためか駅舎はありません。

古写真の中の一番左側でスーツを着た人は乾覚郎氏で、斎宮跡の顕彰運動や、私財を提供して参急電鉄が斎宮を通るように尽力されました。

※注釈のない写真は、平成28年9月～11月に撮影したものです。

昔の斎宮の様子がわかる写真をご提供ください!!
斎宮跡のかつての様子がどのようなものであったか後世に伝えるため、斎宮の古い写真をお持ちの方は斎宮跡・文化観光課へご提供ください。

＜御舘の碑＞

昭和4年～5年頃撮影か（大西源一氏撮影、大西健氏提供）

御舘の碑付近から北方面を撮影した写真です。道幅はずいぶん変わっていますが、斎王の森に向けて道がつづいています。石碑の周辺には一面田んぼが広がっていました。

＜斎王の森＞

昭和4年～5年頃撮影か（大西源一氏撮影、大西健氏提供）

昭和62年6月撮影

斎王の森に「史蹟斎王旧阯」の石碑が建てられたのは昭和4年3月で、発掘調査がされていなかった当時は斎宮の中心地と考えられていました。古写真では斎王の森を避けるように道が左手に曲がっています。斎王の森は発掘によって方格地割の外側であることが分かってきています。しかし、斎王の森は方格地割の北西の隅に位置し、斎宮を守る重要な場所として今日まで守られています。

昭和4年～5年頃撮影か（大西源一氏撮影、大西健氏提供）

斎王の森から南方面を撮影した写真で、左手奥にうっすらと映る森の方向が、現在の竹神社方面と思われます。斎王の森から斎宮駅方面に通じる道路が確認できます。現在の道路は、斎宮を区画した方格地割と重なります。発掘から道路幅はおよそ9mあったとされ、現在の道路はその名残で、斎宮の壮大さがしのばれます。写真では鉄道の架線が確認できず、前掲の白黒写真と共に、石碑を設置した昭和4年3月から昭和5年3月の鉄道開通までに撮影された可能性があります。